

中日新聞「リンクト」LINKED PRESENTS
病院を
I KNOW! HOSPITAL AND MEDICAL
知ろう

犬山中央病院

企画制作 中日新聞広告局 編集 有限会社エイチ・アイ・ピー

犬山市唯一の
総合的な病院として
地域医療ネットワークの
「ゲートキーパー」をめざす

犬山中央病院

循環器センターを開設し、得意分野を打ち出す。

02

厳しい財政状況のなか、どのように病院を維持し、地域医療を支えていくか。そこで、同院が力を入れているのが、公的な役割を担う病院として幅広い診療領域をカバーしつつ、そのなかでもキラリと光る得意分野を伸ばしていくことである。

その代表例が、循環器領域への挑戦だ。2008年、心臓力

テールのエキスパートとして知られる伊藤一貴医師を招聘し、それまで医師不足により一時閉鎖していた循環器内科を再開するとともに、尾張北部地域で初めてとなる循環器センターを開設した。ここでは狭心症や心筋梗塞をはじめ、不整脈、弁膜症、心筋症、先天性心疾患など幅広い疾患に対応し、心臓カテーテルによる冠動脈形成術は1年で約600件を数え、東海地区でも有数の成績を上げている。さらに、2010年には心臓リハビリテーションの取り組みにも着手。循環器疾患をもち患者のスムーズな社会復帰や疾患の再発防止を目的として、運動療法や食事療法を提供し、超急性期から回復期までの包括的な治療を提供している。

これからの時代に求められる 新しい二次医療機関とは。 病院のあり方を見つめ、革新に挑む。

犬山中央病院は、犬山市の中央にある地域の中核病院。診療圏は、犬山市を中心に愛知県扶桑町、大口町の一部、岐阜県各務原市東部、可児市西部地区まで広がる。犬山市の市民病院的な役割を担いつつ、時代の変化に合わせて理想の病院のあり方を探る。その姿を追った。

市民の声から生まれた 犬山市唯一の 総合的な病院。

01

犬山市には昔から市民病院がなく、公的な病院を要望する市民の声が大きかった。「病気になるたとき、安心して受診できる総合的な病院がほしい」。そんな市民の願いに応え、公的な役割を担うべく1982年に開院されたのが、医療法人社団志聖会 犬山中央病院である。

2003年には、回復期リハビリテーション病棟と人間ドック・健診専用スペースを備えた新棟がオープン。現在、22の診療科と316床の病棟（一般病棟268床、回復期リハビリテーション病棟48床）を備え、約470名の職員を抱える地域の中核病院へと成長している。

しかし、財政面から見ると、この30年間の歩みは決して順風満帆ではなかった。通常、市立病院には市からの財政支援があるが、犬山中央病院は民間病院のため、公的な役割を果たしつつも、そうした経済的な支援は望めない。それでも、採算不採算を問わず、市民ニーズに応える診療科を幅広く取り揃え



なければならぬ。さらに近年では、深刻な医師不足の問題も重くのしかかっていた。「市民

から求められる病院の機能を維持するために、なんとか頑張つてやってきました、という感じですね」と、呼吸器内科部長で地域連携室の責任者も務める竹腰篤医師は語る。

循環器センターを開設し、得意分野を打ち出す。

02

厳しい財政状況のなか、どのように病院を維持し、地域医療を支えていくか。そこで、同院が力を入れているのが、公的な役割を担う病院として幅広い診療領域をカバーしつつ、そのなかでもキラリと光る得意分野を伸ばしていくことである。

その代表例が、循環器領域への挑戦だ。2008年、心臓カ

テーテルのエキスパートとして知られる伊藤 貴医師を招聘し、それまで医師不足により一時期閉鎖していた循環器内科を再開するとともに、尾張北部地域で初めてとなる循環器センターを開設した。ここでは狭心症や心筋梗塞をはじめ、不整脈、弁膜症、心筋症、先天性心疾患など幅広い疾患に対応し、心臓カテーテルによる冠動脈形成術は1年で約600件を数え、東海地区でも有数の成績を上げて

いる。さらに、2010年には心臓リハビリテーションの取り組みにも着手。循環器疾患をもつ患者のスムーズな社会復帰や疾患の再発防止を目的として、運動療法や食事療法を提供し、

超急性期から回復期までの包括的な治療を提供している。

こうした目覚ましい展開の狙いはどこにあるのか。「高齢化の進むこの地域では、心臓・血管系の疾患をもつ患者さんがたくさんいらっしゃいます。そう

いうニーズに、地域の中核病院として応えたい、という思いがあります」と、竹腰室長は言う。循環器センターができたこ

とで、地域の診療所からの紹介患者も増大した。地域で求められる専門医療に焦点を当て、その高度化を図ることで、地域で「選ばれる」病院をめざしているとしている。

あらゆる内科的疾患を診て、 専門医へ繋ぐ。 「総合内科」の機能強化。

03

自らの得意分野を伸ばす一

方、同院が重要な柱と位置づけているのが、「総合内科」である。総合内科とはどんな診療科なのか。「一言で言えば、臓器からの視点ではなく全身的に診て、その上で然るべき専門医へ繋ぐ役割を果たしています」（竹腰室長）。

もともと内科は幅広い疾患を対象としてきたが、医学領域の専門化にともない、次第に細分

化してきた。犬山中央病院においても、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、神経内科などが標榜されている。しかし、患者にとっては、どこを受診すべきかわからないときもあるし、複合的な疾患をもつ人も多い。そういうケースを一手に引き受けるのが、総合内科なのだ。

「当院ぐらいの規模の病院で



C O L U M N

●犬山中央病院が循環器疾患とともに力を入れる専門領域が、脳疾患である。高度な専門治療を提供するために「脳卒中センター」を立ち上げ、3名の専門医を中心としたチーム医療により、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などすべての脳血管障害の診療にあたっている。とくに一刻を争う救急疾患については、当番の専門医が24時間待機するオンコール体制で迅速に対応している。

●急性期の治療後も、リハビリテーション科と協力して回復期リハビリテーションに力を注ぐ。在宅医療への継続ケアにおいては地域の診療所との連携を深め、患者の早期社会復帰を強力にサポートしている。さらに、健康管理センターにおいて一般の人間ドックに加え、「脳健診」も積極的に行っており、予防医学的なアプローチにも力を入れている。

中目新聞
「リンクド」
LINKED
PRESENTS
病院を
知ろう
LINKED HOSPITAL AND MEDICAL